

線形代数 6.1.03

1次写像と単射性・全射性・同型

K. Yoshitomi

大阪府立大学

2017

この動画は培風館「理工系新課程線形代数基礎から応用まで」[改訂版]に準拠しています。
スライドは <http://www.las.osakafu-u.ac.jp/~yositomi/slide/LA2-2017/> にあります。

線型写像と単射性

★ $f: V \rightarrow W$ を線型写像とする. このとき:

f が単射 $\Leftrightarrow f(v) = 0_W$ となる v は 0_V のみ.

$\therefore (\Rightarrow)$ f は線形写像だから $f(0_V) = 0_W$ である.

$f(v) = 0_W$ とする. $f(v) = f(0_V)$ だから, f が単射ならば $v = 0_V$ となる.

すなわち, $f(v) = 0_W$ ならば $v = 0_V$ である.

Q. 逆を示せ.

線型写像の単射性と1次独立性

$f: V \rightarrow W$ を線形写像, $v_1, v_2, \dots, \in V$ とする.

★ $f(v_1), \dots, f(v_m)$ が1次独立ならば v_1, \dots, v_m は1次独立.

★ f 単射のとき, 上の逆が成り立つ. すなわち,
 f が単射, v_1, \dots, v_m 1次独立ならば $\Rightarrow f(v_1), \dots, f(v_m)$ 1次独立.

特に単射 $f: V \rightarrow W$ が存在するならば $\dim V \leq \dim W$

Q. 下線部「特に...」の部分の説明せよ.

Q. 任意の1次独立な V のベクトルの系を 1次独立な W のベクトルの系に写すような1次写像 f は単射であることを示せ.

ヒント:1つのベクトルが1次独立であることは0でないことと同値.

線型写像と全射性

$f: V \rightarrow W$:線型写像, S を V を生成する任意の集合: $V = \langle S \rangle$ とする.

★ f が全射 $\Leftrightarrow W = \langle f(S) \rangle$ ただし, $f(S) = \{f(v) | v \in S\}$

特に全射が存在 $\Rightarrow \dim V \geq \dim W$

$\therefore S = \{v_1, \dots, v_m\}$ とする(簡単のため有限集合とする).

(\Rightarrow) f 全射と仮定する.

$w \in W$ を任意のベクトルとすると, $v \in V$ が存在して $f(v) = w$.

$V = \langle S \rangle$ より $c_i (i = 1, 2, \dots, m)$ がとれて, $v = \sum c_i v_i$.

$w = f(v) = \sum c_i f(v_i) \in \langle f(S) \rangle$ である.

Q. (\Leftarrow) を示せ.

Q. 下線部「特に...」を示せ

同型写像とベクトル空間の同型

全単射な同型 $f: V \rightarrow W$ が存在するとき, V と W は同型という.

(1) $f: V \rightarrow W$ が同型(全単射な線型写像) $\Rightarrow \dim V = \dim W$

(2) $\dim V = \dim W \Rightarrow$ 同型 $f: V \rightarrow W$ が存在.

(3) V と W が同型 $\Leftrightarrow \dim V = \dim W$.

\therefore (1): $v_1, \dots, v_m: V$ の基底, f 同型ならば, f の単射性より

$\dim V \leq \dim W$ f の単射性より $\dim V \geq \dim W$. $\therefore \dim V = \dim W$

Q. (2)を示せ.

注 (3)は (1), (2)と同型の定義から明らか.

次回「1次写像の核と像の定義」